

3ヶ月で偏差値10UPを実現する 学習改善マニュアル

第1章

なぜ名門指導会は「3か月以内に偏差値10UP」をスタンダードにできているのか？

第2章

中学受験で頑張っても成績が伸びない唯一にして最大の原因を知っていますか？

第3章

3か月で偏差値10UPするための「学習改善」とは？
教科ごとの成績の上げ方を徹底公開

まとめ

3か月で偏差値10UPするために「今日からできること」

“頑張っているのに伸びない”状態から確実に抜け出し、お子さんの「努力」を「結果」につなげるために、やり方を変えれば、未来は変わる。その事実を実例とともに詳しく解説します。

【本書の目的とご挨拶】

この度は、実際に「3か月で偏差値10UP」を達成している名門指導会の指導法にご興味を頂きありがとうございます。

本書の目的は中学受験に挑戦する多くのご家庭が悩まれている…

「頑張って勉強はしているのに、どうしても成績が上がらない」

というお悩みの原因を知っていただき、「何をすれば成績が上がるのか？」

その答えを、実際に「3か月で偏差値10以上UP」している事例を紹介することで、知っていただきます。

15分ほどで読めますが、本書を読むだけでも…

- 短期間で成績を上げるための学習の進め方
- お子さんに負担をかけずに、今と変わらない学習量で成績を上げる方法
- 中学受験で成績が伸び悩んでしまう唯一にして最大の原因
- 教科ごとの成績の上げ方と、実際に成績を上げた指導事例
- 3か月以内に偏差値10UPをするための学習改善法

がわかります。

名門指導会にご興味をお持ちいただいている方はもちろんですが、家庭教師を検討されていなくても、中学受験で成績が思ったように伸びず「お子さんの努力を何とか成績UPにつなげる方法が知りたい」と悩まれている方には、必ず役立てていただける内容となっておりますので、ぜひご活用下さい。

第1章

なぜ名門指導会は「3か月以内に偏差値10UP」をスタンダードにできているのか？

名門指導会では「3か月以内に偏差値10UP」を指導の目的としています。

そこでまずは本題に入る前に、実際に3か月以内に偏差値10以上の成績UPを達成しているお子さんの成績表をご紹介します。

指導4ヶ月 組分けテストの算数 事例

偏差値 37.1 2023年9月2日時点

テスト実施日▼	テスト名	受験コース	レポート	算数 得点 平均点 偏差値 順位	国語 得点 平均点 偏差値 順位
2023/09/02	4年公開組分-05	共通	レポート▼	48 / 102.8 / 37.1 / 8605/9976	

偏差値+22.4
UP!

偏差値 59.5 2024年1月28日時点

テスト実施日▼	テスト名	受験コース	レポート	算数 得点 平均点 偏差値 順位	国語 得点 平均点 偏差値 順位
2024/01/28	4年公開組分-09	共通	レポート▼	140 / 102.6 / 59.5 / 1609/10733	

指導3ヶ月 慶応普通部模試の国語 事例

偏差値 60.3 2025年10月11日時点

10/11実施 2025年度慶應義塾普通部合格判定模試					
校舎名	受験番号	氏名			
教科	得点	平均点	偏差値	全体順位	評価
算数					
国語	68 / 100	55.3	60.3	32 / 224	B

偏差値 36.0 2025年7月20日時点

7/20実施 2025年度第3回慶應義塾普通部オープン模試					
校舎名	受験番号	氏名			
教科	得点	平均点	偏差値	全体順位	評価
算数					
国語	40 / 100	57.8	36.0	321 / 348	E

偏差値+24.3
UP!

指導3ヶ月半 理科の組分け 合不合 事例

偏差値 57.2 2025年4月6日時点

テスト実施 日▼	テスト名	受験 コース	レポート	算数			国語			理科			順位	
				得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値		
				順位			順位			順位				
2025/04/06	合不合-01(男女合計)	共通	レポート▼								71	56.1	58.9	
											2639/14217			
2025/04/06	合不合-01(男子のみ)	共通									71	58.8	57.2	
											1769/7590			

偏差値 45.4 2024年12月15日時点

テスト実施 日▼	テスト 名	受験 コース	レポート	算数			国語			理科			順位	
				得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値		
				順位			順位			順位				
2024/12/15	5年公開編 分-08	共通	レポート▼								47	55.8	45.4	
											7264/11199			

偏差値+11.8
UP!

もちろん、これは実際に指導しているお子さんの一部の事例です。

名門指導会で指導をご依頼いただいているご家庭では、皆さん同じような結果を体験していただいております。

何よりお伝えしたいのは、上記の事例のお子さんは皆、

「学習量をいくら増やしても、成績が変わらない」

「何度繰り返してもテストで正答できるようにならない」

「苦手教科は頑張っても伸びないと思っている」

といったように

「頑張って勉強しているのに、どうしても成績が伸びない」

と悩まれていたお子さんだという点です。

きっと、本書を読んでいるお母さん・お父さんも同じ様に悩まれているのではないのでしょうか。

ではなぜ、名門指導会では、このような「3か月以内に偏差値10以上UP」を達成できるのか？

結論から申しますと、その答えは、

指導開始から1か月を目安に

「勉強した分だけ、成績が上がる勉強方法を身に付けてもらっている」

からです。

実は冒頭でご紹介したのは、実はどれも苦手教科の克服事例ばかりです。

苦手教科で成績が伸びないのは、お子さんの「特性」や「思考力」の問題ではありません。苦手教科と、得意教科で違うのは「勉強の正しいやり方」を知らないまま勉強を続けてしまっているという点です。

たとえ今、苦手と思っている教科であっても、正しいやり方での学習方法を習得できれば、得意教科と同じくらいラインまで成績は追いついてきます。

ここからは、「正しいやり方 = 勉強した分だけ、成績が上がる勉強方法」とは一体何なのか詳細に解説していきます。



どの教科でも得意教科と同程度の偏差値までは伸ばせる

第1章では、「**苦手教科でも、得意教科と同じラインまで偏差値を伸ばせる**」ということに触れました。

このマニュアルを読んだ方から、「本当にそんなことが可能なのか？」という質問をよく頂きますので、ここで補足して解説します。

中学受験に挑戦するお子さんは、どんなお子さんでも教科の差が出て当然です。

特にできない教科があり「苦手教科」と言われるものが出来てきます。

わかりやすい例をあげましょう。

ご相談をいただくお子さんの中には、算数・理科・社会の偏差値は60周辺。

ところが、国語の偏差値が45というような、極端に国語が苦手というお子さんも珍しくありません。

このような場合、お子さん本人も、お母さん・お父さんも「国語が苦手」と考えます。もちろん、現状では明らかに「出来ていない」のは事実です。

ところが名門指導会の講師から見ると、「**これは不自然すぎる**」と見えるのです。

というのも、算・理・社で偏差値65を出せるということは、「思考力・作業力」とも非常に優れた能力を持っているお子さんです。

その「優れた能力を持っているお子さん」が普通に勉強していて、いくら苦手とはいっても、国語の偏差値が45なんてことは本来有りえないのです。

つまり、これは「考える力」や「集中力」、ましてや「勉強不足」というような問題ではないということです。

「国語」の取り組み方で、根本的に間違っていて進めてしまっていることがあるに違いないと名門指導会の講師は考えます。

なので、その「まちがったやり方」を1つずつ紐解いていけば、当然他の教科と同じレベル帯まで伸びていくようになるのです。

わかりやすい例として極端な例を上げましたが、苦手教科というのは何か原因があって苦手になってしまっているだけに過ぎず、その他の教科、特に一番偏差値が高い教科と同じくらいまでには、当然持っていくことができるというのを、基本的な指導方針としています。

これが「**苦手教科は得意教科と同じくらいまで伸びる**」理由です。



第2章

中学受験で頑張っても成績が伸びない唯一にして最大の原因を知っていますか？

短期間で成績を上げる方法を知るためには、まず中学受験において「なぜ、頑張っても成績が伸びなくなってしまうのか？」を正しく理解することが必要です。

中学受験で成績が上がらない原因は「演習量が足りない」からでも、「お子さんの地頭が悪い・能力が足りない」からでもありません。

「そもそも、次の偏差値帯にあげるための、正しい勉強のやり方が備わっていない」

これこそが、成績低迷の根本原因です。

そして実は、

苦手教科すらも先天的に苦手ということはまずありません。

どこかでつまづいてしまったことをきっかけに、理解が広がらない学習方法を続けてしまった結果、どんどんわからなくなってしまう「苦手教科」ができあがってしまっていると考えましょう。

偏差値は「今の学習のレベル」を測る”ものさし”と考える

まず大前提として、中学受験で成績を上げるには、

目標とする成績帯、及び、志望校のレベルに見合った「学習方法」が必須です。

名門指導会の講師陣も当然「偏差値が全て」とは考えておりません。しかし、大手塾が持つ圧倒的な受験者数から出される「偏差値」はお子さんの現状を知る有効な手段でもあります。

大半のお子さんは、塾で習ったことを「なんとなく」解き、「なんとなく」丸付けをします。そして、わからない問題が出てくると、いつものように「なんとなく」飛ばしてしまいます。

このやり方で、量をいくら増やしても、今のレベル以上に理解は深まりません。

この、今の「なんとなく」のやり方の勉強でたどり着ける限界が、
現状のお子さんの偏差値に出ていると考えて下さい。

成績が上がらないのは学習量や時間の問題ではなく、今のやり方を変える以外に方法がないのです。

なぜ、成績が上がらない勉強方法が身についてしまっているのか？

ここで1つ強調しておきたいことは、

「成績が上がらない勉強法」になっていることについて、お子さんに非は一切ない

という点です。

お子さんは塾に通って、それぞれ自分なりに一生懸命勉強しています。

ところが、毎日多くの課題をこなす中で、「考えてもわからないこと」が当然出てきます。

安定して成績を伸ばし、勉強した分だけ成績が伸びる勉強法を身に着けつけるには、この「わからないこと」を1つずつ解決していく中で…

「どう考えればいいのか？」

「どのように整理すれば答えにたどりつけるのか？」

「何を根拠に正答を出すのか？」

「丸暗記するのではなく、理屈で覚える」

といったことを体験しながら、学習の質を高めていくことが必要です。

ですがこれは理想論で、実際のところは、そう上手くは行かないお子さんの方が多いです。

限られた時間の中で、とにかく、たくさんの宿題を終わらせないといけない。

だからこそ、この小さな「わからないこと」を…

「とにかく答えを出すことに躍起になる」

「習った公式に数字だけを当てはめて宿題をやってしまう」

「とりあえず、まるごと覚えて乗り切る」

「解説をみて、なんとなく理解したつもりになってしまう」

「見たことない問題は解けないと、考えてみることを諦める」

といったように、どうしても「なんとなく」で勉強してしまうようになります。そして、その傾向は学年が進むにつれて強くなっていきます。

この積み重ねの結果、「どれだけ頑張っても、今のレベルでしか理解できない学習」が、知らず知らずのうちに身についてしまうのです。

頑張っても成績が上がらないのは、

「成績を上げるために必要な勉強」ができていないから

結局のところ、一体どういう状態が、「どれだけ頑張っても、今のレベルでしか理解できない学習」なのでしょうかな？

安定して、テストで一定以上の成績を取るには、

「どれだけ覚えているか？」

ではなく、

「ひねった問題であっても整理して、学んだことを思い出し、いつも通り解き切る力」

が必要です。

ところが、

- テスト前に丸暗記して、乗り切る
- 公式や典型題を記憶して、テキストと同じ問題は解けるようになる
- もう理解できているレベルの問題をずっと練習する
- 自分の気分で、なんとなく、思いつくままに解答する
- できなかった問題は、解説を読んで終わり

というような勉強が染み付いてしまっていては、「どんな問題でも、1人で解き切る力」は絶対に身につけません。

学習量を増やしても成績が上がらなくなっているのは、「**普段の勉強で絶対にやらないといけないこと**」が、「**いつの間にか**」できなくなっているからです。

ここからは、「**勉強した分だけ、成績が上がる勉強方法**」にするためには、何をしないといけないのか？を詳しく、かつ教科ごとに、実際に偏差値が10以上伸びた指導例とともに紹介していきます。



「苦手教科」という言葉を使うリスクをご存知ですか？

お母さん・お父さんは何気なく使ってしまう「苦手教科」という言葉。

実はこの言葉、、、

「苦手だから、僕（私）はこの教科ができないんだ。」お子さんに思い込ませてしまう危険な言葉であることはご存知でしょうか？

思い返してみてください。

今、「苦手」と感じている教科も、1年生や2年生の段階でつまづいていたかを考えると、「その頃はできていた」ということはありませんか？

実際に、はじめはできていたのに、ある時点から徐々に解けない問題が増えていったというお子さんが多いのです。

苦手教科といっても、成績が伸びない原因はとてもシンプルです。

■どこかで勉強のやり方がズレてしまった

■本当に大切な基本的な知識や解き方を勘違いして覚えてしまっている

■じっくり考えれば解けるが、焦ってしまうようになった

などのように、遡れば原因は些細なことだったりするのです。

なので、これらの原因を1つずつ解決すれば、案外簡単に「解ける・出来る」ことに気づき、それをきっかけとして、その教科に対するモチベーションが上がっていくお子さんは珍しくありません。

そうなんです。

苦手教科はお母さん・お父さんが思っている以上に容易に解決できるんです。

ところが、成績が他の教科に対し伸び悩む期間が長く続く中で、「やっぱり、算数は苦手だね。」といった言葉を繰り返し使ってしまうと、お子さんが「やっぱり、僕は算数ができないんだ」と諦めモードに入ってしまう、ついには本当に苦手になってしまいます。

そういった意味では、他の教科に比べ、明らかに苦手だろうと思える成績であったり、お子さんから勉強の内容を聞いた時にあいまいになっているなど感じる教科については、対策が早ければ早いほど、得意教科へ転じるのが容易になります。

ぜひ、お子さんが過度に「苦手だ」ということを意識してしまわないように気をつけましょう。



第3章

3か月で偏差値10UPするための「学習改善」とは？ 教科ごとの成績の上げ方を徹底公開

さて、ここからは具体的に「3か月以内に、偏差値10UPする」ためには、どのような学習が必要なのかを、教科ごとに見ていきます。

【改めて考えよう】毎日の勉強が「成績の上がる勉強」になっていますか？

月並みな言葉に聞こえると思いますが、結局、勉強とは「日々の学習の積み重ね」です。

どの教科でも成績を上げられるかどうかは、

「1人で正解にたどり着ける力」を育てられるか

にかかっています。

そのためには、簡単な問題も含めて、ただ漠然と答えを出すのではなく、

- 解答手順を一通り理解する
- 問題文を飛ばさずに読む
- 条件を整理する
- 根拠を持って考える
- 正確に作業する
- 間違った場合は、どこで間違えたかを分析する

といった手順をしっかり踏んだ勉強が必須です。

このような手順を毎回大事にするからこそ「思考力 = 考える力」や「作業力 = 確実に正答する力」が育っていき、テストで1人で確実に正答する力が身につきます。

当たり前に聞こえるかもしれませんが、成績が伸び悩んでいる単元・教科・苦手なことは、これらの部分の何かが回っていないことが原因なのです。

このような勉強、今一度振り返ってみて「できている」と思いますか？

もし今…

-
- 何度繰り返しても、できるようにならない
 - 対策しているのに、テストになると正答できない
 - 少し問われ方が変わると（テキストの問題以外）、途端にできなくなる
 - 毎回、できる問題が安定せず、簡単な問題もよく落としてしまう
 - 何度覚えても、すぐに忘れて思い出せない
-

といったことに心当たりがあるのであれば、日々の勉強で「何か不足していること」が必ずあるはずです。

では具体的に教科ごとに、成績を上げるためには、どのような勉強が必要なのか？

現状のお子さんの勉強に足りていないものは何なのか？をチェックリストで具体的に特定しながら、対策方法について詳しく知っていきましょう。



3ヶ月で偏差値10UPする学習法 算数編

ここでは実例とともに具体的に算数の成績を上げるために何が必要かを明らかにしていきます。

まずは、お子さんの現状を分析していただくために、普段の勉強において、下記項目で当てはまるものをチェックしてみてください。

算数学習の10のチェック項目

- ☐ 問題文を最後まで読まない
- ☐ 問題文を考え、条件を整理していない
- ☐ 何に注目するか？決まった基準と順番がない
- ☐ 式だけ書いて、授業で習った図や表を書かない
- ☐ 公式を丸暗記していて、なぜその式になるか理解できていない
- ☐ 決まった解答手順ができあがっていない
- ☐ 解き終わった後に、答えの妥当性を確認していない
- ☐ 間違えた問題の原因分析をせず、解答を見るだけ、あるいは、解き直しだけしている
- ☐ 数字の見分けがつかない書き方をしている
- ☐ 式や計算が斜めに書かれてしまっている

いかがでしょうか？

こちらの中で該当したものが、今お子さんの算数学習で足りていないことになります。1つでもチェックがついた場合、そこが原因で算数の成績は伸びにくくなります。

これはどういうことなのか？わかりやすい例をみましょう。

次のページから、実際に名門指導会で指導を行ったお子さんのテスト問題の書き込みを用いて解説をしていきます。

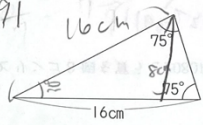
指導前のお子さんの算数の偏差値は37.1でした。

【BEFORE】指導開始前のテストへの書き込み

(5) ある小学校の4年生のうち、26人はめがねをかけています。これは4年生全体の $\frac{2}{7}$ にあたります。4年生全体の人数は何人ですか。

$$26 \div \frac{2}{7} = \frac{26 \times 7}{1 \times 2} = 91$$

(6) 右の図の三角形の面積は何 cm^2 ですか。

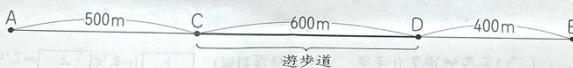


$$16 \times 8 \div 2 = 64$$

(7) あるクラスには男子が20人、女子が何人かいます。このクラスで1か月のおこづかいの金額を調べたところ、男子の平均は490円、女子の平均は535円、クラス全体の平均は510円でした。このクラスの女子の人数は何人ですか。

$$490 \times 20 = 9800$$

(8) 下の図のように、A地点とB地点をつなぐ道があります。この道の途中のC地点からD地点までは遊歩道になっていて、自転車で走ることができず、歩いて進みます。四谷君はA地点を出発してB地点まで、大塚さんはB地点を出発してA地点まで同時に自転車でそれぞれ一定の速さで出発しました。自転車で走る速さは四谷君は分速150m、大塚さんは分速160mです。2人が自転車に乗らずに歩いているときの速さは分速60mで、自転車を乗り降りする時間は考えないものとするとき、2人がどちらも遊歩道を歩いていた時間は何分何秒間ですか。



3
20

ある野球チームの子どもの年齢は、11才が9人、12才が6人、13才が5人です。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) このチームの子どもの年齢の合計は何才ですか。

$$11 \times 9 + 12 \times 6 + 13 \times 5 = 99 + 72 + 65$$

(2) このチームの子どもの年齢の平均は何才ですか。

$$11 \times 9 + 12 \times 6 + 13 \times 5 = 236$$

$$\begin{array}{r} 11.8 \\ 20 \overline{) 236} \\ \underline{20} \\ 36 \\ \underline{20} \\ 160 \\ \underline{160} \\ 0 \end{array}$$

この問題用紙への書き込みだけでも、算数の成績が伸び悩んでいる原因が、

「典型題」の解き方を丸暗記していて「考えて解く」ことができていない

ということがはっきりとわかります。

このことから、このお子さんは普段の学習の中で、

- ☐ 問題文を考え、条件を整理していない
- ☐ 何に注目するか？決まった基準と順番がない
- ☐ 式だけ書いて、必要な図や表を書かない
- ☐ 公式を丸暗記していて、なぜその式になるか理解できていない
- ☐ 数字の見分けがつかない書き方をしている
- ☐ 式や計算が斜めに書かれてしまっている

といったように、必要なことができていないことがはっきりとわかります。

実際にわかりやすい箇所にマークを入れたのが次です。

(5) ある小学校の4年生のうち、26人はめがねをかけています。これは4年生全体の $\frac{2}{7}$ にあたります。4年生全体の人数は何人ですか。

$26 \div \frac{2}{7} = \frac{26 \times 7}{1 \times 2} = 91$

(6) 右の図の三角形の面積は何cm²ですか。

$16 \times 8 \div 2 = 64$

引いている線が垂直ではない

(7) あるクラスで、女子が何人かいます。こづかいの金額を調べたと、女子の平均は535円、クラス全体の平均は510円でした。このクラスの女子の人数は何人ですか。

$490 \times 20 = 9800$

式が斜めに書かれている

(8) 下の図のように、A地点とB地点の間には遊歩道があります。A地点からC地点までは500m、C地点からD地点までは600m、D地点からB地点までは400mです。大塚さんはB地点とD地点を同時に自転車でそれぞれ一定の速さで出発しました。自転車で走る速さは四谷君は分速150m、大塚さんは分速160mです。2人が自転車で乗らずに歩いているときの速さは分速60mで、自転車を降り降りする時間は考えないものとするとき、2人がどちらも遊歩道を歩いていた時間は何分何秒間ですか。

条件が整理されていない
問題を読まずに式を書き始めている

3
20

ある野球チームの子どもの年令は、11才が9人、12才が6人、13才が5人です。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) このチームの子どもの年令の合計は何才ですか。

$11 \times 9 + 12 \times 6 + 13 \times 5 = 99 + 72 + 65$

(2) このチームの子どもの年令の平均は何才ですか。

$20 \overline{) 236}$

斜めに書かれている+
数字の列が揃っていない
ミスの原因

特に注目したいのが、答えは出せているのですが、実は理解が浅いことがわかる「(6)の三角形の問題」です。

こちらは、「30度の直角三角形」の典型題です。

「30度の直角三角形は、正三角形を半分に切った形」という法則を使って、三角形の高さ8cmを求めるといふものなのですが、これ直角線が引けてないのがわかりますか？

補助線を見ると、まっすぐ線を下ろせていないのと、直角のマークも書かれていません。

このことから「30度の三角形があるから、底辺の長さは半分だ」と、そこに行き着くまでの思考がないことが見て伺えます。

正しい思考手順

二等辺三角形を探す → 二等辺三角形を見つける → 30度がわかる → 30度の直角三角形を作る → 底辺の8cmがわかる → 面積を求める

ここでの思考手順

二等辺三角形を探す → 二等辺三角形を見つける → 30度がわかる → --30度の直角三角形を作る → **30度なら高さは半分だろう** → 面積を求める

となっています。

小さな違いのように見えると思いますが「30度の三角形の底辺は、もう1つの辺の半分でもいい」といった間違った思考が身につきかねません。(実際にそうになってしまう子は少なくないです。)

このように「ある程度正答はしているものの、実は深く理解できない勉強」そのものから変えないと、算数の成績は上がりません。

普段の勉強を変えると、どれくらい変わるのか？の例も見てください。

先程のお子さんに日々の勉強のやり方から指導をした後の、実際のテストの書き込みが次になります。

【AFTER】指導開始3か月後のテストへの書き込み

(5) 右の図は五角柱です。この五角柱の体積は何 cm^3 ですか。

(6) ある水族館では、大人1人の入館料は子ども1人の入館料の4倍で、大人3人と子ども5人の入館料の合計は11900円になります。子ども1人の入館料は何円ですか。

(7) 右の図のような、長方形を2つ組み合わせた図形があります。この図形を、直線 ℓ を軸にして1回転させてできる立体の表面積は何 cm^2 ですか。

(8) 大塚さんは、月曜日、金曜日、火曜日、土曜日、……と4日ごとに1回のきまりでピアノ教室に通うようになりました。最初に通ったのは3月27日月曜日でした。大塚さんが25回目にピアノ教室に通うのは、何月何日何曜日ですか。

3
20

右の図は、底面が正方形の四角すいの展開図で、側面の三角形はすべて合同な二等辺三角形です。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) この展開図を組み立てた四角すいの、表面積は何 cm^2 ですか。

(2) この展開図を組み立てた四角すいの体積が 64cm^3 です。この四角すいの高さは何 cm ですか。

指導前と比較すると、問題用紙への書き込み量が増えているのがわかると思います。

この書き込みの変化に「思考力」「作業力」が段違いになっていることが見て取れます。

典型的な箇所を次に記しました。

(5) 右の図は五角柱です。この五角柱の体積は何cmですか。

図と式が連動している。

$$\left(\frac{6 \times 4.3 + 5 \times 2 \times \frac{1}{2} \right) \times 10 = (7.8 + 5) \times 10 = 1280$$

(6) ある4倍で、入館料の合計は11900円になります。最も1人入館料は何円ですか。

正確で必要な補助線が描けている

問題文を式にする作業はできるようにしている

図にして理解をしようとしている

途中までやり方が分からず、試行錯誤しているが、思い出した後、正確な手順で解答をしている

単元への理解があるから、途中まで分からなくてもリカバリできる

図から正確に式にできている

全体を通して、式が斜めの書き方が安定している

(8) 大塚さんは、月曜日、金曜日、火曜日、土曜日、……と4日ごとにピアノ教室に通うことになりました。最初に通ったのは3月27日月曜日で、次にピアノ教室に通うのは、何月何日何曜日ですか。

途中までやり方が分からず、試行錯誤しているが、思い出した後、正確な手順で解答をしている

単元への理解があるから、途中まで分からなくてもリカバリできる

図から正確に式にできている

全体を通して、式が斜めの書き方が安定している

特にわかりやすい点をハイライトしましたが、「考え方」と「解き方」をテストで実施できるようになっていることが見て取れますね。

これは、日々の学習で、毎題きちんと、

問題文を読む → 条件を整理する → 何をすればいいか思考する → 正しい手順で作業を行う

という流れを追いながら勉強することで、自分一人で考えて、正答までたどり着くトレーニングを重ねた結果、テスト用紙の書き込みにも大きな変化が出ています。

このような思考力・作業力が育つ勉強に切り替えた結果どれくらい成績が上がったかと言うと…

指導4ヶ月 組分けテストの算数 事例

偏差値 37.1 2023年
9月2日時点

テスト実施 日▼	テスト 名	受験 コース	レポート	算数			国語		
				得 点	平均 点	偏差 値	得 点	平均 点	偏差 値
				順位			順位		
2023/09/02	4年公開 組分-05	共通	 レポート▼	48	102.8	37.1			
				8605/9976					

偏差値+22.4
UP!

偏差値 59.5 2024年1月28日時点

テスト実施 日▼	テスト名	受験 コース	レポート	算数			国語
				得 点	平均 点	偏差 値	
				順位			
2024/01/28	4年公開組 分-09	共通	 レポート▼	140	102.6	59.5	
				1609/10733			

といったように、大きく偏差値が伸びていることがわかりますね。

実際の事例を見ることで、「量を増やして繰り返し学習する」ことではなく、「やり方そのものを変えること」が成績UPの鍵であることがわかりやすくなったのではないのでしょうか。

算数で偏差値10UPを狙うために必要なことは？

さて、ここからは、上記のように短期間で確実に結果を出すためには、算数の学習をどう変えていけばよいかをまとめていきたいと思います。

わかりやすく、先程の「算数の学習診断」と同じく10個のポイントにまとめました。

算数学習で成績を上げるための10のポイント

- ☐ 毎回、問題文を最後まで読む
- ☐ まずは、問題文の内容を考え、条件を整理する
- ☐ 何に注目するか？決まった基準と方針（順番）を持つ
- ☐ 必要な図や表を毎回必ず描く
- ☐ 公式は必ず「なぜそうなるのか？」必要な条件を再現して使用する
- ☐ 決まった解答手順で解く
- ☐ 必ず答えの妥当性を確認・意識する
- ☐ 間違えたときは、どこで何がわからなかった or できなかったのかを特定する

- ☐ 普段から、見分けがつく数字を書く
- ☐ 式や計算はまっすぐ揃えて書く

この10個のポイントを意識して、宿題も含め、どんな問題でもこれらの条件を満たして問題を解くことが算数学習のレベルを上げていく唯一にして最短の手段になります。

これらのうちの何が欠けていても、考える力や、正確に答えを出す力・技術が育たないからです。

簡単に1つずつ解説すると…

【算数成績UPの条件1】毎回、問題文を最後まで読む

リード文を整理する力（読解力）が算数にも必須です。読み飛ばすことなく、普段の学習で、最初から最後まで読む訓練ができるからこそ、本番でも落ち着いて読む力が育ちます。

【算数成績UPの条件2】まずは、問題文の内容を考え、条件を整理する

普段の勉強の目的は「答えを出すこと」ではなく、「確実に正答にたどり着く力を育てる」ことです。簡単な問題であっても、一呼吸置いて、問題文の内容を考えた上で、今何がわかっていて、何が聞かれているのかを考え、答えを出すには何をするのか？を必ず考えます。この逆が「問題文を読んで、このページの問題の式はこうだろ」とすぐに式をかき出す勉強です。

【算数成績UPの条件3】何に注目するか？決まった基準と方針（順番）を持つ

思いつくままに解くのではなく解法の方針を立てる基準（ルーティン）を持ちましょう。「図形問題で、まずは二等辺三角形がないか確認する」といったように、確実に正答に近づくための手順を逃さず踏めるように、「何に注目するのか？」のルール化と理解が必要です。

【算数成績UPの条件4】必要な図や表を必ず描く

「図や表にまとめる」こともトレーニングがないと絶対に描けるようになりません。簡単な問題でも必要な図や表は必ずかくようにしてください。「テストのときはちゃんとかくから」というお子さんは、本番で必ず失敗します。

【算数成績 UP の条件 5】 公式は必ず「なぜそうなるのか？」必要な条件を再現して使用する

公式を使うときは、条件が整っていることを全て確認してから使用します。宿題では「このページの問題は今習った公式が使える」という前提が使えますが、テストではそうではありません。公式に対する理解を深め 1 人でも使えるようにするには、なぜ、そうなるのか？を考えた上で式を立てていくことが必須です。

【算数成績 UP の条件 6】 決まった解答手順で解く

思いつくままに解くのではなく、決まった解答手順（ルーティン）に沿って、解答することが必要です。図を描くことから、計算方法まで、常に正確な答えを出すためには、一定の順番に沿って解答することが必須です。毎回違うやり方をしたり、思いつきだよりの解き方をしてしまうと、安定して正答にたどり着くことはできません。

【算数成績 UP の条件 7】 必ず答えの妥当性を確認・意識する

算数の成績が伸びないお子さんほど、出している答えが何を表しているのかに意識が向いていません。求めている数字の持つ意味（単位や量など）を理解し、たどり着いた正答が妥当な範囲に収まっているかを考える習慣も、算数学習の成績を伸ばす必要条件です。

【算数成績 UP の条件 8】 間違えたときは、どこで何がわからなかった or できなかったのかを特定する

上記の 1～7 の条件が揃ってくると、どこで、なぜ間違ったのかが明確になってきます。作業が下手だったのか？そもそも知識が欠けていたのか？間違って覚えていたのか？ルーティンができてないから何かを見逃したのか？など、間違えた原因を特定し対策をすることで、記憶に刻まれる勉強ができるようになっていきます。

【算数成績 UP の条件 9・10】 普段から、見分けがつく数字を書く／式や計算はまっすぐ揃えて書く

馬鹿に出来ないのが、数字や式の書き方です。6 年生でも悩むお子さんが大量にいます。文字や式の雑さは、必ずミスを生みます。「テストでは丁寧に書く」のではなく、普段の学習から練習を心がけましょう。

全ては、算数の成績を上げる 3 つの力をつけるため

これら 10 の条件を揃えることで、算数の成績を上げる要となる「3 つの力」が育っていきます。

算数の成績を安定して伸ばすには…

整理力…問題文を正しく読み、条件を整理する力

思考力…整理した条件から、どのように解くか道筋を考える力

作業力…条件整理や計算など実際の作業を正確にこなせる力

どの力も必要なもので、どれかを集中して伸ばせばいいというわけではありません。

10 個の条件が、どの力を育てるためのものかをまとめると…

算数の成績を伸ばす 3 つの力を育てる学習の条件とは？

整理力	☐ 毎回、問題文を最後まで読む ☐ まずは、問題文の内容を考え、条件を整理する
思考力	☐ 何に注目するか？決まった基準と方針（順番）を持つ ☐ 公式は必ず「なぜそうなるのか？」必要な条件を再現して使用する ☐ 必ず答えの妥当性を確認・意識する
作業力	☐ 決まった解答手順で解く ☐ 普段から、見分けがつく数字を書く ☐ 式や計算はまっすぐ揃えて書く
全ての力	☐ 必要な図や表を必ず描く ☐ 間違えたときは、どこで何がわからなかった or できなかったのかを特定する

【まとめ】算数の成績不振最大の原因は才能ではなく、学習の条件不足

算数の潜在的な力はあるにも関わらず、これらの条件が上手く噛み合っていないため、成績が伸びないというお子さんはごまんといいます。

算数がとんでもなく苦手というお子さんも、今までの学習で不足していたことが多かったせいで、確実に正答するための力（整理力・思考力・作業力）が育っていないことが原因です。

学習量を増やすよりも、目の前の1問を通して、どれだけ算数力を育てられるか？を考えることが大事です。

1つずつ条件を整えていくことができれば、3か月以内に偏差値10UPは充分可能になります。



3ヶ月で偏差値10UPする学習法 国語編

続いて国語も実例とともに、具体的に成績を上げるために何が必要かを明らかにしていきます。

まずは、お子さんの現状を分析していただくために、普段の勉強において、下記項目で当てはまるものをチェックしてみてください。

国語学習の10のチェック項目

- ☐ 素材分を集中して最初から最後まで読めない
- ☐ 何となく読んで、思うがまま答えるだけになっている
- ☐ 読んだ文章を頭の中で映像化できていない
- ☐ 文章のどこに注目するか？決まった方針がない
- ☐ 時短テクニックばかり大事にしている
- ☐ 選択肢をなんとなく選び、根拠を探していない
- ☐ 記述問題で「決まった書き方」を持っていない
- ☐ 解答の根拠になりそうな箇所を意識し、マーキングをしていない
- ☐ 間違えた問題の原因分析をせず、答えだけ確認している
- ☐ 漢字や語句を覚えるだけで、実際に使われている場面が想像できていない

いかがでしょうか？

こちらの中で該当したものが、今お子さんの国語学習で足りていないことになります。1つでもチェックがついた場合、そこが原因で国語の成績は伸びにくくなります。

どういうことなのか？

わかりやすい例をみてみましょう。

下記は実際に名門指導会で指導を行ったお子さんのテスト問題の書き込みです。

指導前のお子さんの国語の偏差値は36でした。

【BEFORE】指導開始前の本文への書き込み

⑥ 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

「ビルはサンゴ礁でできています」というと、ほとんどの人は怪訝な顔をします。

a そしてこの石灰岩は山から採石したものののです。

b しかし事実、ビルをつくっているコンクリートやモルタルは、石灰岩と粘土を混ぜたセメントに、砂、砂利、水などを加えたものです。

c 石灰岩はそのわかしサンゴ礁や有孔虫、ウミユリ、貝類などの骨や殻が堆積してできたものです。

埼玉県秩父には武甲山という山があります。秩父のあらゆるところから望むことができ、秩父の象徴として人気が高い山です。石灰岩の山としても知られ、石灰岩ならではの山野草があつたり奇岩怪石があつたりと、楽しく登れる山です。

A 西武鉄道側から見ると探掘がおこなわれているため、山の側面が大きく削り取られ、白い岩肌がむき出しになっていて、その造りに驚きます。武甲山の石灰岩は明治期よりセメントの原料として探掘が進められ、いまでも営業が続けられている日本屈指の良質な大鉱床です。

このように石灰岩でできた山は日本中に多く、滋賀県の最高峰である伊吹山やその南にある藤原岳なども全山が石灰岩でできています。石灰石は水に溶けやすいため、山口県の秋吉台や福岡県の平尾台のように、地表には羊の群れのような多数の奇岩をつくり、その下には鍾乳洞をつくっていることがあります。いわゆるカルスト地形です。

じつは日本は石灰岩の国内年間生産量は1億7千万トンで、世界で3番目です。②鉱物資源としては、硫黄と並んで自給率100%です。これは日本列島が付加体、つまりサンゴ礁や火山灰などでできているためです。もともと海の中にあつたサンゴ礁などの堆積物が持ち上がった陸となり山となつたからです。ちなみにエベレストの山頂も石灰岩で、わかし海であつたことがわかつています。大理石も石灰岩の一種です。石灰岩がマグマにより熱せられ再結晶したもので、

15

第5回 小5 国語

ら이었다。

「あのさ、葉子。中学生になったら、もうちょっと、身なりに気をつかいなよ」小学校の卒業式を間近にひかえた、ある日のこと。高校生のお姉ちゃんに、いきなり言われた。きよとんとまばたきをする私に、こちらが気おくれしそうなぐらいの真剣さで、お姉ちゃんは言葉を吐いた。

「中学校ってシビアなんだから。そんなグサイメガネじゃ、絶対いじめられちゃうよ」

それに――と、今度は目をふつと細めると、お姉ちゃんはおでこを指で弾いた。葉子、最近かわいくなつたじゃん。今のまんまじゃもつたないよ。その一言に、とんと背中を押された気がした。

その春休み、私は生まれて初めてコンタクトを作り、隣町のおしゃれな美容院で髪を切った。セーラー服の着こなし方と、寝ぐせの直し方も、お姉ちゃんから教わった。初めて姿見の前に立つた時の衝撃は、今でも、ちよつと忘れられない。

肩の上でさらりと揺れる、ショートボブ。ななめ分けた前髪からのぞく、こげ茶色のどんぐりまなこ。スカートの裾からのぞく、すらりと伸びたひざこぞう。

そこにいたのは、まるで自分じゃないような、すつきりとあか抜けた女の子だったから。

「そのカツコなら、すぐに友達くらいできるよ。自信持って行てきな！」入学式の朝、お姉ちゃんにどしんと背中をたたかれて家を出た。この姿を見たら、しおりはなんて言ってくれるだろう？ 似合ってるね、いい感じだよってほめてくれるだろうか――そう思うと、胸がどきどきして、自然と早足になつていった。

待ち合わせは、中学校の校門の前。七分咲きの桜の下に、ワンサイズ大きく見えるしおりの制服姿を見つけた時、私は迷わず、まっすぐに走っていった。

「しおり！」

名前を呼ぶと、落着かなげに足元ばかり見ていたしおりが、ほつとしたように顔を上げた。でも……笑みが浮かんだのは一瞬だった。駆け寄ってきた私を見る

8

少し本文に線を引っ張っているところは見られますが、ほとんど書き込みがないことは明確ですね。

同じく設問パートも見てみます。

【BEFORE-2】設問への書き込み

第5回 小5 国語

- (3) ①「武甲山という山」とありますが、この「武甲山」はどのような山ですか。「最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。」
- ア 採掘がおこなわれているため、むきだしになった白い岩肌がどこからでも望める。
- イ 埼玉県の最高峰であり、多数の奇岩や鍾乳洞をつくっているカルスト地形の山である。
- ウ 独特の自然を楽しみながら登山をすることができ、石灰岩の山として有名である。
- エ 明治期よりセメントの原料として採掘が進められてきたが、いまは営業を停止している。
- (4) ②「鉱物資源としては、硫黄と並んで自給率100%です」とありますが、それはなぜですか。次の文の□にあてはまる言葉を本文中から二十四字で探し、はじめと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。
- ◎ 日本列島がかつて□できたため。

19

第5回 小5 国語

このように「ふさわしいものを…」といったような、「ふさわしいか、ふさわしくないか」に注意しようという形跡だけが見られます。

この問題用紙への書き込みだけを見ても、お子さんが普段の学習で、

- ☐ 何となく読んで、思うがまま答えるだけになっている
- ☐ 文章のどこに注目するか？決まった方針がない
- ☐ 選択肢をなんとなく選び、根拠を探していない
- ☐ 記述問題で「決まった書き方」を持っていない
- ☐ 解答の根拠になりそうな箇所を意識し、マーキングをしていない
- ☐ 間違えた問題の原因分析をせず、答えだけ確認している

といったように、国語の成績が伸び悩む特徴に当てはまりますね。

実際、国語の成績が伸び悩むお子さんの大半が、このように「書き込みがない」のです。

もちろん、これは「線を引くことが大事」ということではありません。

よく言われる「大事な場所に線を引く」というのは、あくまで国語学習に必要な条件を満たす手段の1つに過ぎないからです。

最大の問題は、

「ただ読んで、思いつきで答えるだけ」になっているため、確実に正答にたどり着く

「国語に必要な力」が育たない勉強になっていること

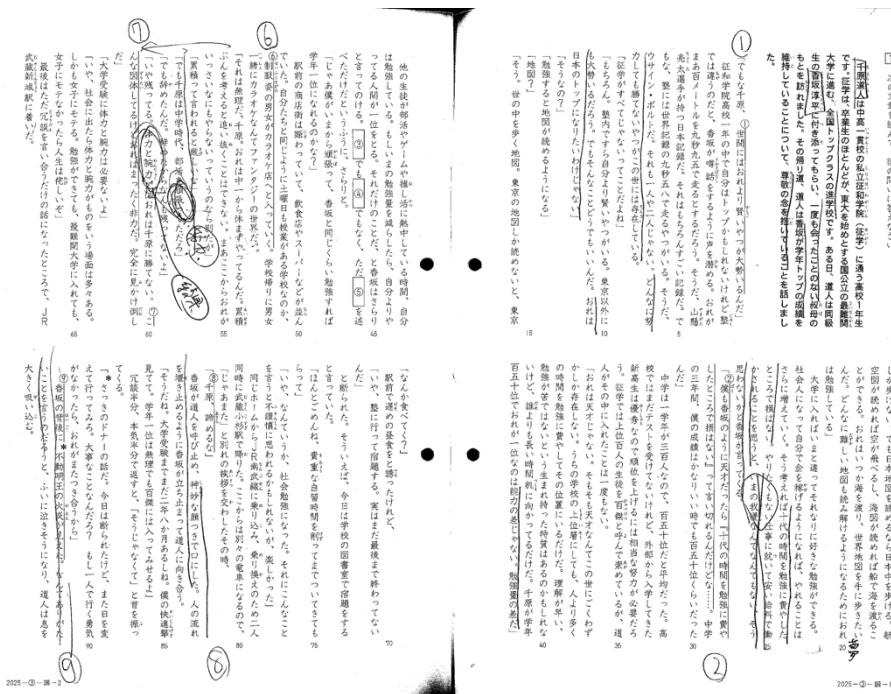
です。

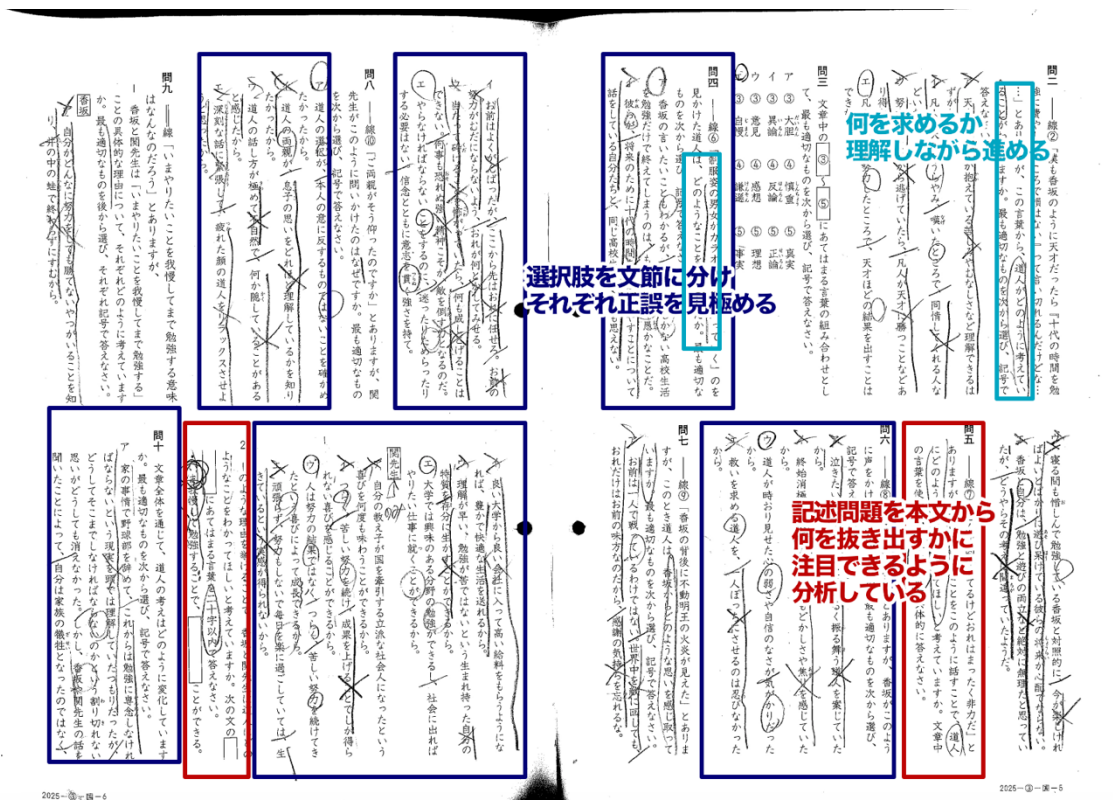
成績を上げるために何が必要なのかを一目で理解していただくために、実際に10の学習診断に注目して指導をすると、答案用紙がどの様に変ったかをご紹介します。

下記は先程の「ほぼ白紙」のお子さんを3か月指導した後のテスト用紙への書き込みになります。

設問と本文を両方見てみましょう。

【AFTER-1】指導開始後の本文への書き込み





特にわかりやすい点をハイライトしましたが、

- 素材文を読み込む際に、設問の根拠となりそうな箇所のマーキング
- 記述問題を素材文の言葉で組み立てられるように、注目すべき場所を予めマーキング
- 選択肢を合理的に絞り込む判定法

と「確実に正答するためのルーティン」のトレーニングが活きていることが、はっきりとわかりますね。

さらに、時間を限り無く無駄にしないために、

- 下線部がある部分の行に数字を記述し、設問を読んだ時にすぐに見つけられるようにする
- 登場人物を意識するために、必ず登場人物の名前が出た時に□で囲う

という対策も行っています。そして、これを全ての問題で行うようになっていきます。

元々の、「文章を読んで何となくそれっぽい答えを選ぶ」という取り組みから一変し、「明確な意図を持って、作業をし、正答を割り出していく」ように切り替わっていますね。

これだけの思考・作業の変化が出来上がると、実際どれくらい成績が変わるのか？

下記が実際のお子さんの成績推移になります。

指導3ヶ月 慶応普通部模試の国語 事例

偏差値 60.3 2025年10月11日時点

10/11 実施 2025年度慶應義塾普通部合格判定模試					
校 舎 名		受 験 番 号		氏 名	
教 科	得 点	平均点	偏差値	全体順位	評 価
算 数					
国 語	68 / 100	55.3	60.3	32 / 224	B
理 科					

偏差値 +7
UP!

偏差値 53.3 2025年8月31日時点

8/31 実施 2025年度第4回慶應義塾普通部オープン模試					
校 舎 名		受 験 番 号		氏 名	
教 科	得 点	平均点	偏差値	全体順位	評 価
算 数					
国 語	57 / 100	52.5	53.3	97 / 253	C
理 科					

偏差値+17.3
UP!

偏差値 36.0 2025年7月20日時点

7/20 実施 2025年度第3回慶應義塾普通部オープン模試					
校 舎 名		受 験 番 号		氏 名	
教 科	得 点	平均点	偏差値	全体順位	評 価
算 数					
国 語	40 / 100	57.8	36.0	321 / 348	E
理 科					

といったように、みるみる成績が上がっていき、3か月で偏差値25近く上がっていることが見て取れますね。

国語は「成績を上げるのが最も難しい教科」と考えられがちなのですが、上記のように成績を上げる明確な手段は確かに存在するのです。

国語で偏差値10UPを狙うために必要なことは？

さて、ここからは、短期間で確実に結果を出すためには、国語の学習をどう変えていけばよいかをまとめていきたいと思います。

わかりやすく、先程の「国語の学習診断」と同じく10個のポイントにまとめました。

国語学習で成績を上げるための10のポイント

- ☐ 本文は必ず最初から最後まで読む
- ☐ 読んだ文章を頭の中で映像化する訓練をする
- ☐ 注目するポイントを意識して読む（感情・主張）
- ☐ 時短テクニックは通常学習では使わない
- ☐ 選択肢を分割し、根拠となる部分を照らし合わせる
- ☐ 記述問題は「抜き出し形式」で文章を作る
- ☐ 解答の根拠になりそうな箇所はマーキングする
- ☐ 間違えた場合、どこを読み落としたのか？チェックが甘かったのか？を検証する
- ☐ 「自分の意見」は排除する
- ☐ 知らない漢字や語句が出たら都度、用法とともに確認する

この10個のポイントを意識して、普段の勉強からしっかりと本文を読み解き、解答の精度を上げていくことが、最短の手段になります。

これらのうちの何が欠けていても、読解力・得点力・語彙力は育ちません。

簡単に1つずつ解説すると…

【国語成績 UP の条件 1】本文は必ず最初から最後まで読む

国語は「文章を読む力」が必要な教科です。そのため宿題で、読み飛ばしをしたり、時短のために不要な場所を飛ばすという勝手な読み方をしてはいけません。読み飛ばしは成績上位層のお子さんが6年の後半の過去問で使うテクニックであり、今から使っても、読解力が育たない原因にしかならないからです。もちろん、意識して読む速度を上げるトレーニングも重要です。

【国語成績 UP の条件 2】読んだ文章を頭の中で映像化する訓練をする

物語文は全編を通して、説明文でも「具体例」が出されている場面では、その場面を想像して頭の中で映像化しながら読むことが大切です。これは、映像化されている小説を映像で見た後に、小説を読むといった方法で対策することが可能です。

【国語成績 UP の条件 3】注目するポイントを意識して読む（感情・主張）

物語文では「心情の変化」、説明文では「作者の主張」に注目するということは読解の最低の条件です。何となく読むのではなく、毎回意識して読むことが大事です。国語学習の基本である「線引き」の目的は、確実に意識をしながら読むためでもあります。

【国語成績 UP の条件 4】時短テクニックは通常学習では使わない

接続詞の周辺、傍線部の周辺だけを読んだり、設問を先に見て答えを予測するといったような時短テクニックは国語力を高める練習では邪魔になります。一部の最難関の受験をのぞけば、「基本的には前から順に読んで考えて解ける問題」が出題されます。読む力を鍛えるべき普段の勉強で「省略」する訓練をすると、本来必要な力が育たなくなります。単純に読む速度を早くするトレーニングにもならないため、特に注意が必要な条件です。

【国語成績 UP の条件 5】選択肢を分割し、根拠となる部分を照らし合わせる

選択問題の正答率を上げるのが国語の偏差値を上げる最短ルートです。なんとなく、それっぽいものを選ぶのではなく、確実に正答を絞り込むためのルーティンを作っていくことが大切です。

【国語成績 UP の条件 6】記述問題は「抜き出し形式」で文章を作る

記述問題は0から文章を作ろうとすると失敗します。「抜き出し問題」は正答できるのに、自由記述は正答できないというお子さんは少なくないです。本文の言葉を「抜き出し」て、それを組み合わせて文章を作るという記述方式を練習することで8割解答を目指すことが大切です。

【国語成績 UP の条件 7】 解答の根拠になりそうな箇所はマーキングする

これは時短とは別で、国語の問題では素材文を必ず振り返ることになりますので、毎回どこに何が書いてあったかを探している時間はもったいないです。答えになりそうな箇所・大切だと思う箇所には読んでいるうちから印をつける習慣をつくっていきましょう。

【国語成績 UP の条件 8】 間違えた場合、どこを読み落としたのか？チェックが甘かったのか？を検証する

1～7の条件を意識していると、そのうちの何が欠けていたから不正解だったのか？が明確になっていきます。今の自分に足りていなかったことが何かを検証して、次回以降につなげていくことが、国語力を向上させます。

【国語成績 UP の条件 9】 「自分の意見」は排除する

1～8に加えて重要なことは、国語では「今は、あなたの意見は聞かれていない」ということに納得することです。国語が苦手なお子さんと、この意識を「素材文に書いていることを元に解答する」へと切り替えるだけで一気に成績が伸びるお子さんも珍しくありません。

【国語成績 UP の条件 10】 知らない漢字や語句が出たら都度、用法とともに確認する

普段の文章で知らない言葉・漢字に出会ったら、どのような用法で使われているのかチェックする習慣をつけるだけでも、3年間で膨大な語彙力が育ちます。本文読解のついでに勉強するだけでも、効率が格段にアップします。

全ては、国語の成績を上げる 4 つの力をつけるため

【国語の落とし穴】苦手な子ほど「時短」や「テクニック」に逃げて失敗する

これら 10 の条件を揃えることで、国語の成績を上げる要となる「4 つの力」が育っていきます。

国語の成績を安定して伸ばすには…

読解力…本文から重要な要素を読み取る力

得点力…根拠を持って確実に正答する力

記述力…求められた答えを書き出す力

語彙力…言葉への理解の力

どの力も必要なもので、どれかを集中して伸ばせばいいというわけではありません。

10 個の条件が、どの力を育てるためのものかをまとめると…

国語の成績を伸ばす 4 つの力を育てる学習の条件とは？

読解力	☐ 本文は必ず最初から最後まで読む ☐ 読んだ文章を頭の中で映像化する訓練をする
得点力	☐ 注目するポイントを意識して読む（感情・主張） ☐ 選択肢を分割し、根拠となる部分を照らし合わせる ☐ 「自分の意見」は排除する
記述力	☐ 記述問題は「抜き出し形式」で文章を作る
語彙力	☐ 知らない漢字や語句が出たら都度、用法とともに確認する
全ての力	☐ 時短テクニックは通常学習では使わない ☐ 解答の根拠になりそうな箇所はマーキングする ☐ 間違えた場合、どこを読み落としたのか？チェックが甘かったのか？を検証する

【まとめ】国語は明確な成績を上げる手段がある教科

国語は4教科の中でも特に【手のうちようがない】と思われがちな教科なのですが、成績の上げ方を見ていただいたら分かる通り、実は明確に成績を上げる手段がある教科なのです。

ところがなにかと「時短の読み方」や「国語の攻略法」といったような、テクニックに頼りがちな教材も多く、本質的な「読む」という作業を飛ばしてしまうことが多いため、どうしても成績が伸びません。

もちろん読解力が育った後に、過去問レベルの難易度の高い問題に挑戦する時には、そのような力を育てることも大事なのですが、まずは普段の勉強で目の前の文章を「正しく読み切る」ことで読解力を育てることが、国語の偏差値UPには不可欠です。

ぜひ参考にしてみてください。



3ヶ月で偏差値 10UP する学習法 理科編

ここでは実例とともに具体的に理科の成績を上げるために何が必要かを明らかにしていきます。

まずは、お子さんの現状を分析していただくために、普段の勉強において、下記項目で当てはまるものをチェックしてみてください。ここでは実例とともに具体的に理科の成績を上げるために何が必要かを明らかにしていきます。

理科学習の10のチェック項目

- ☐ テキストの導入部分・資料集をほとんど使っていない
- ☐ 一問一答で暗記している
- ☐ 分類し、整理して覚えることができていない
- ☐ 問題文（特にリード文）を最後まで読まずに解き始める
- ☐ 表やグラフから必要な情報を書き出していない
- ☐ 動きを視覚化する図を書かない
- ☐ 実験データから「法則」を見つけ出す意識がない
- ☐ 分野ごとの一定の解答手順が定まっていない
- ☐ 間違えた時、解説をチェックしても「なぜそうなるか？」説明できない
- ☐ 理科は、身の周りで起きる現象の説明であることに気づいていない

いかがでしょうか？こちらの中で該当したものが、今お子さんの理科の学習で足りていないことになります。

1つでもチェックがついた場合、そこが原因で理科の成績は伸びにくくなります。

ということなのか？わかりやすい例をみてみましょう。

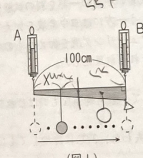
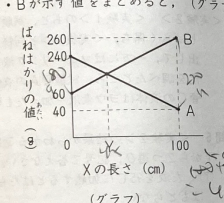
次は実際に名門指導会で指導を行ったお子さんのテスト問題の書き込みです。

指導前のお子さんの理科の偏差値は 45.4 でした。

【BEFORE】指導開始前の本文への書き込み

5 長さが100cmの太さが一定でない棒を使って、実験を行いました。これについて、次の問いにそれぞれ数字で答えなさい。

＜実験＞棒の両端をばねばかりでつるし、左端におもりをつるした。このあと、棒を水平に保ったまま、(図1)のようにおもりを右端に向かって動かしていった。Xの長さとはばねばかりA・Bが示す値をまとめた、(グラフ)のようになった。

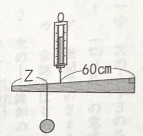
(図1) (グラフ)

問1 (グラフ)のYにあてはまる値はいくつですか。

問2 棒とおもりの重さはそれぞれ何gですか。

問3 棒の重心は、(図1)の棒の左端から何cmの位置にありますか。

問4 <実験>で使った棒とおもりを使って、(図2)のようにつるしたところ、棒は水平になってつり合いました。このとき、棒の左端からおもりをつるした位置までの長さ(図2のZ)は何cmですか。



(図2)

この問題用紙への書き込みだけでも、理科の成績が伸び悩んでいる原因が、

「典型題」の解き方を丸暗記していて「考えて解く」ということができていないこと

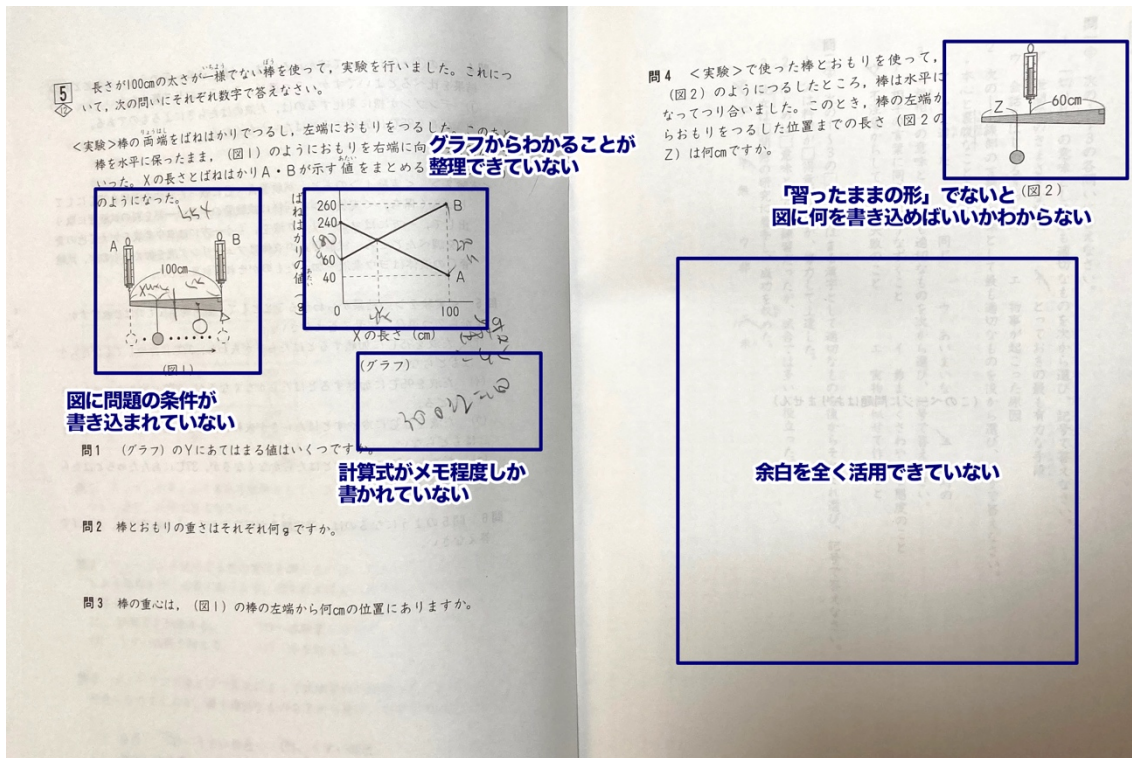
がはっきりとわかります。

この問題用紙から見えることをまとめると、お子さんは普段の学習で、

- ☐ 問題文の条件を整理して解くことができていない
- ☐ 与えられた条件をしっかりと図に書き込むことができていない
- ☐ 計算式をちょっとしたメモ程度のもので済ませている
- ☐ 「習ったままの形」でないと図に何を書き込めばいいかわからない
- ☐ グラフから分かることを形にせずに解いている
- ☐ 問題文の余白を利用できていない

といったように、必要なことができていないことがはっきりとわかります。

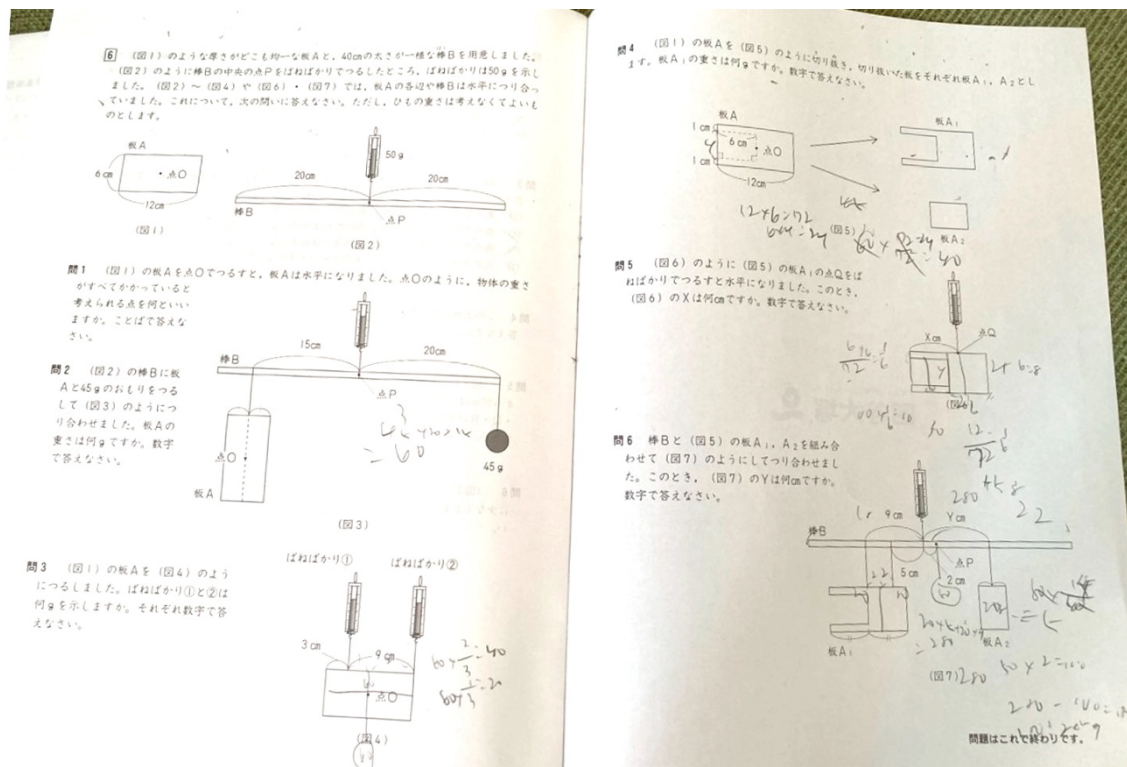
実際にわかりやすい箇所にマークを入れたのが下記です。



続いて普段の勉強を変えると、どれくらい変わるのか？の例も見てみましょう。

先程のお子さんの日々の勉強のやり方から指導をした後の、実際のテストの書き込みが下記になります。

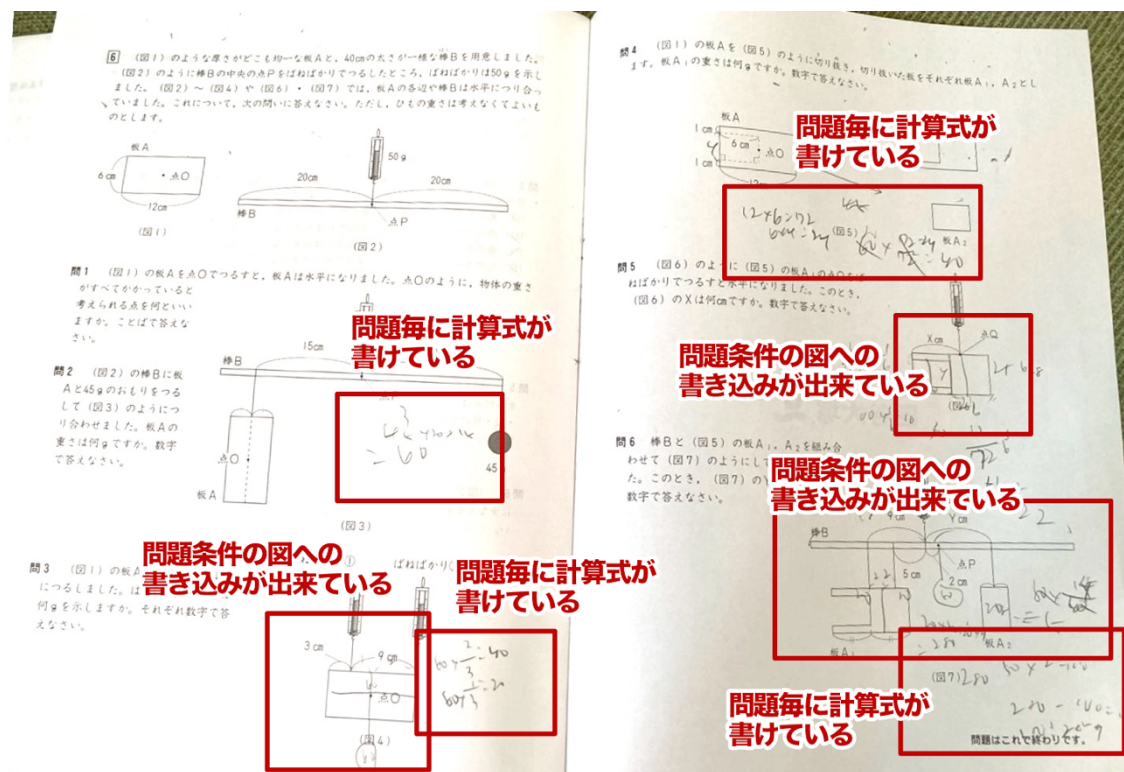
【AFTER】指導開始3か月後のテストへの書き込み



指導前のものと比較すると、問題用紙への書き込みも多く、計算式なども見やすく書かれていることがわかります。

初めて見る問題であっても「このような問題は、こういった情報を図に書き込むと混乱せずに思考を進めることができる」ということがわかっているため、出来る書き込みです。

典型的な部分をハイライトしてみます。



特にわかりやすい点をハイライトしましたが、「考え方」と「解き方」を演習でも実施できるようになっていることが見て取れますね。

日々の学習で、毎題きちんと、

問題文を読む → 条件を整理する → 何をすればいいか思考する → 正しい手順で作業を行う

できています。特に、例として出している「てこ」の問題は、中学受験でも苦手なお子さんが多い単元です。一つ一つの問題に対して、公式として覚えているものを使うのではなく、動きがわかるように図へと書きこみをし、それに応じた式を導きだすことができるかどうか、そして、その中で問題や単元に対する理解をするトレーニングを行っていくことが理科の力を育てていくことにつながっていきます。

指導3ヶ月半 理科の組分け 合不合 事例

偏差値 57.2 2025年4月6日時点

テスト実施 日▼	テスト名	受験 コース	レポート	算数			国語			理科			順位
				得点	平均 点	偏差 値	得点	平均 点	偏差 値	得点	平均 点	偏差 値	
				順位			順位			順位			
2025/04/06	合不合-01(男女合計)	共通	レポート▼							71	56.1	58.9	
											2639/14217		
2025/04/06	合不合-01(男子のみ)	共通								71	58.8	57.2	
											1769/7590		

偏差値 45.4 2024年12月15日時点

テスト実施 日▼	テスト 名	受験 コース	レポート	算数			国語			理科			順位
				得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値	得点	平均点	偏差値	
				順位			順位			順位			
2024/12/15	5年公開編 分-08	共通	レポート▼							47	55.8	45.4	
										7264/11199			

偏差値+11.8
UP!

といったように、大きく偏差値が伸びていることがわかりますね。

実際の事例を見ることで、「量を増やして繰り返し学習する」「類題を多く解いて、解き方を覚える」ことではなく、「学習のやり方そのものを変えること」が成績UPの鍵であることがわかりやすくなったのではないのでしょうか。

理科で偏差値10UPを狙うために必要なことは？

さて、ここからは、上記のように短期間で確実に結果を出すためには、理科の学習をどう変えていけばよいかをまとめていきたいと思います。

わかりやすく、先程の「理科の学習診断」と同じく10個のポイントにまとめました。

理科学習で成績を上げるための10のポイント

- ☐ テキストの導入部分はしっかり読む
- ☐ 知識は一問一答ではなく、因果関係やストーリーで理解して覚える
- ☐ どのように整理し、理解すれば覚えやすいかという視点を持つ

- ☐ 問題文を最後まで読み、与えられた条件は何かを考える習慣をつける
- ☐ 表やグラフから分かることを整理して書き出してから問題を解く
- ☐ 目に見えない力や電流などを「見える化」して図に書くことを意識する
- ☐ 実験や観察問題では、つねに「そこからわかること」を考える
- ☐ 「このような問題はどのように整理する」という視点で理解する
- ☐ 間違えた時は、必ず「なぜ間違ったか」を考える
- ☐ 学習する際は、自分のこれまでの経験に照らして理解する

この10個のポイントを意識して、宿題も含め、どんな問題でもこれらの条件を満たして問題を解くことが理科学習のレベルを上げていく唯一にして最短の手段になります。

これらのうちの何が欠けていても、考える力や、正確に答えを出す力・技術が育たないからです。

簡単に1つずつ解説すると…

【理科成績UPの条件1】テキストの導入部分はしっかり読む

お子さんのテキストを見ていただくと、テキストの導入部分にはその単元の重要事項や大切な考え方、ポイントとなることが整理して書かれているはずです。ここをしっかりと読んで自分なりに理解をすること。これが理科の授業を聞いて内容を理解することにもつながり、思考力、理解力を育んでいきます。いきなり問題を解くのではなく、導入部分をしっかりと読んでから問題を解くようにしましょう。

【理科成績UPの条件2】知識は一問一答ではなく、因果関係やストーリーで理解して覚える

知識を単なる一問一答として暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」という因果関係やストーリーで理解することで、初見の問題にも対応できる処理力が身につきます。

【理科成績UPの条件3】どのように整理し、理解すれば覚えやすいかという視点を持つ

闇雲に覚えるのではなく、「どう整理すれば思い出しやすく、記憶に残りやすいか」という視点を持って物事を理解、記憶することが大切です。

【理科成績UPの条件4】問題文を最後まで読み、与えられた条件は何かを考える習慣をつける

リード文の中には、問題を解くために必要な条件が漏れなく記載されています。リード文を最後まで読み、与えられた条件を漏れなく把握する習慣をつけることが重要です。

【理科成績UPの条件5】表やグラフから分かることを整理して書き出してから問題を解く

表やグラフから分かることを理解するところまではみんなするのですが、そのことをしっかり書き出して見える化をしている人は少ないです。理科の成績を上げたければしっかりグラフや表の内容を理解するだけでなく整理して書き出すことを心がけましょう。

【理科成績UPの条件6】目に見えない力や電流などを「見える化」して図に書くことを意識する

特に物理や科学分野では目に見えないエネルギーなどを扱うことが多いですが、頭の中で考えるだけでなく、それを見る形で問題の図などに書き込むことを意識しましょう。電流やエネルギーなど目に見えない要素を、図の中に書き込んで可視化することで、作業の正確性を高めます。

【理科成績UPの条件7】実験や観察問題では、つねに「そこからわかること」を考える

実験や観察問題の多くはそこから導き出せる結果、さらにはそこから考えられる法則などを答えさせられる問題がほとんどです。実験や観察の問題では、常に「そこから何が分かるのか」「どのような法則が導き出せるのか」を意識しましょう。

【理科成績UPの条件8】「このような問題はどのように整理する」という視点で理解する

複雑な問題では問題の条件を整理することが必須になりますが、問題のタイプによってこのような問題はどのように整理をすると混乱なく考えやすいといった方法があります。これを各分野においてしっかりと理解しようにしておくことが理科の成績アップの必須事項となります。

【理科成績UPの条件9】間違えた時は、必ず「なぜ間違ったか」を考える

テストなどで問題を間違った時に解説を見て理解をするだけでは不十分です。解説を見て理解をしたら自分の力だけでもう1度解き直し、そして「なぜ間違ったのか」「次にこのような問題で何が分かっているのか」といったことを考えておくことが大切です。

【理科成績UPの条件10】学習する際は、自分のこれまでの経験に照らして理解する

理科で学習する内容は全く新しいことのように見えますが、常に自分の身の周りで起こっている現象につながっているということを意識することが大切です。電流やてこ、水溶液なども、ふだん生活の中で使っているものばかりです。これまで自分が経験したことのどんなことに関連があるかというのを考える習慣がつくと理科の力はついていきます。

全ては、理科の成績を上げる3つの力をつけるため

上記の条件を実践することで、理科の成績向上に必要な以下の3つの力が育ちます。

理解力: 問題の条件や授業のポイントを正確に掴む力。

整理力: 条件を自分にとって見やすく、考えやすい形に整える力。

思考力: 条件から何が分かるか、何が求められているかを考える力。

理科の成績を伸ばす3つの力を育てる学習の条件とは？

理解力	☐ テキストの導入部分はしっかり読む ☐ 知識自校は一問一答ではなく、因果関係やストーリーで理解して覚える
整理力	☐ 問題文を最後まで読み、与えられた条件は何かを考える習慣をつける ☐ 表やグラフから分かることを整理して書き出してから問題を解く ☐ 目に見えない力や電流などを「見える化」して図に書くことを意識する ☐ 「このような問題はこのような整理する」という視点で理解する
思考力	☐ どのように整理し、理解すれば覚えやすいかという視点を持つ ☐ 実験や観察問題では、つねに「そこからわかること」を考える ☐ 間違えた時は、必ず「なぜ間違ったか」を考える ☐ 学習する際は、自分のこれまでの経験に照らして理解する

【まとめ】 4つの分野を3つの力で理解していく

理科には物理・化学・生物・地学の4分野がありますが、これらをバラバラに捉えるのではなく、共通の勉強法や整理法が必要であることを理解しなければなりません。

生物・地学（知識分野）は単なる暗記分野と思われがちですが、背景にある理由を理解した上で知識をつけることが大切です。一方で、闇雲に一問一答的な知識をつけても意味がありません。しっかりなぜそうになっているのかというのを理解してそれを元に知識をつけていくことが必要です。

物理・化学（思考分野）については「思考系」と言われますが、知識がなくてもいいのかというと決してそんなことはありません。物理化学分野でも整理の仕方やまとめ方、思考の手順をしっかりと知識として身につけておかなければなりません。このようにバランスよく4つの分野を上記の3つの力を使って学習していくことを意識しておくと理下の成績はおのずとアップしていくことになります。

ぜひチャレンジしてみてください。



3ヶ月で偏差値 10UP する学習法 社会編

最後に社会の成績を上げるために、何が必要かも見ていきましょう。

まずは、お子さんの現状を分析していただくために、普段の勉強において、下記項目で当てはまるものをチェックしてみてください。

社会学習の10のチェック項目

- ☐ 「一問一答」では記憶しきれないことを理解していない
- ☐ 理屈とともに覚えて、長期記憶にすることができていない
- ☐ 問題文（特にリード文）を最後まで読まずに解き始める
- ☐ データやグラフを形や数字で覚えて、特筆すべきポイントの説明ができない
- ☐ 白地図の理解があいまいなまま進んでいる
- ☐ 地理で「なぜ、その場所でそうなるのか？」の説明ができない
- ☐ 歴史の出来事を流れで整理できてない
- ☐ 公民で制度の目的や理由まで理解していない
- ☐ 地図帳・資料集を使わずに勉強している
- ☐ 間違えた問題を「覚え直す」だけで、なぜ間違えたのか分析していない

いかがでしょうか？

こちらで該当したものが、今お子さんの理科の学習で足りていないことになります。

1つでもチェックがついた場合、そこが原因で社会の成績は伸びにくくなります。

ということなのかを他教科のように説明していきたいのですが、社会は「テスト用紙」への書き込みには学習の質が表れにくい教科です。

そのため、上記の条件を満たしていない勉強だとなぜ、成績が上がらないのか？を簡単に解説します。
指導前のお子さんの理科の偏差値は 45.4 でした。

社会の成績不振は、十中八苦、苦手ではなく「記憶容量のパンク」

4教科の中でも最も強く「暗記教科」というイメージのある社会ですが、社会を単に「覚える教科」と考えているのなら、その時点で成績UPの可能性は極めて低くなります。

中学受験の社会ではご存知のとおり、地理・歴史・公民の3つを扱いますが、他の3教科の勉強もしながら、限られた3年という期間の中では、とても覚えきれない学習量を取り扱うことになります。

そのため、大前提として「一問一答では、覚えきれない」ことを前提にしないといけません。

もし、

■ 何度も覚えているし、定期的にやり直しもしているのに社会の成績が上がらない。

■ 他の教科で手一杯で、社会に取れる時間が少ない

というように悩まれているのであれば、社会の成績不振の原因は「学習のやり方」にあると考えるべきです。

社会は「圧縮」して「長期記憶」する教科

社会はどうしても後回しになりがちで、テスト前にまとめて覚える…というお子さんも少なくないと思います。

ですが、本来はそれとは逆で

「理屈を理解することで、覚えることを少なくする」ことが必要な教科

です。

実際社会が得意な子の方が、苦手な子と比較すると、社会の勉強時間が少ないなんてこともよくあります。

実際に「覚えること」と「覚え方の方向性」を変えたお子さんの成績の変化を紹介すると、社会の勉強時間は少なくなったにもかかわらず、つぎのような成績変化が出ています。

指導2ヶ月 組分けテストの社会 事例

偏差値 64.2 2022年3月6日時点

個人成績表 3月度組分けテスト<新6年生>
2022年3月6日 実施

学年 所属コース 受験番号 氏名

総合成績表

科目	得点/配点	偏差値	順位/受験者数	平均点	男女別順位/受験者数
4科目計					
3科目計					
2科目計					
算数					
国語					
理科					
社会	75 / 100	64.2	486 / 6876	52.4	98 / 2872

偏差値 55.0 2022年1月10日時点

個人成績表 新学年組分けテスト<新6年生>
2022年1月10日 実施

学年 所属コース 受験番号 氏名

総合成績表

科目	得点/配点	偏差値	順位/受験者数	平均点	男女別順位/受験者数
4科目計					
3科目計					
2科目計					
算数					
国語					
理科					
社会	62 / 100	55.0	2301 / 7206	53.6	734 / 2984

偏差値 +9.2
UP!

社会で偏差値10UPを狙うために必要なこととは？

もちろん理屈で言うのは簡単ですね。

そこで続いて、上記のように短時間でしっかり覚えきって、飛躍的に成績を上げるためには、どのように勉強すればいいのか？を紹介していきます。

わかりやすく、先程の「社会の学習診断」と同じく10個のポイントにまとめました。

社会学習で成績を上げるための 10 のポイント

- ☐ 地図帳は必ず手元に置いて、毎回確認する
- ☐ 白地図に主要な山脈・平野はかけるようにする
- ☐ 地理的特性と出来事を必ず結びつけて覚える
- ☐ 歴史では「順番」を常に意識する
- ☐ なぜ、それが起こったのか？時代背景とともに理解する
- ☐ 公民は制度の目的とともに、なぜそうなっているのか理由を理解する
- ☐ 問題文（特にリード文）は最初から最後までしっかり読む
- ☐ データやグラフは「イレギュラー」にこそ注目する
- ☐ 1 つの用語を説明し、関連する言葉をいくつも思い出す
- ☐ 間違えた問題は、何が覚えられていなかったのか？に注目する

この 10 個のポイントを意識して、テキストを読み、宿題も含め、どんな問題でも取り組むことが社会学習のレベルを上げていく唯一にして最短の手段になります。

これらのうちの何が欠けていても、覚える力や、考える力、問題文を読み取る力が育たないからです。

簡単に 1 つずつ解説すると…

【社会成績 UP の条件 1】地図帳は必ず手元に置いて、毎回確認する

社会が得意なお子さんほど、地図帳を頻繁に開きます。地名や産業を文字だけで覚えるのではなく、「どこにあるのか？」を地図上で確認することで知識同士がつながり、忘れにくくなります。これは地理だけでなく、歴史でも「どこで何が起きたか？」のイメージが深まり、これも長期記憶や思い出すトリガーになります。

【社会成績 UP の条件 2】白地図に主要な山脈・平野はかけるようにする

地理は場所がわからないと理解できません。山脈・平野・河川などを白地図に再現できるレベルまで整理できると、地理的要因と紐づいて、気候や産業との関係も理解しやすくなります。そして、例外となっているものを覚えるのにも役立ちます。地図を頭の中に作ることが社会の基本で、本来は4年生段階で習得しておきたいです。

【社会成績 UP の条件 3】地理的特性と出来事を必ず結びつけて覚える

1つ1つの事象を単独で覚えるのではなく、「なぜその地域でその産業が発達したのか？」まで考えながら学習します。理由とセットで覚えることで、「大量の水が必要になるので、工業地帯は海岸にできる」といったような同様の条件の知識を簡単に覚えられようになります。

【社会成績 UP の条件 4】歴史では「順番」を常に意識する

歴史は「誰が何をやったか？」の暗記ではなく、流れの理解が重要です。いつ・何が起きたかだけでなく、「なぜ起きて、その結果どうなったのか？」を時系列で整理する習慣をつけましょう。流れが理解できると、覚える量は大幅に減らせます。

【社会成績 UP の条件 5】なぜ、それが起こったのか？時代背景とともに理解する

条件4と同じく、歴史の出来事には必ず原因があります。出来事だけを覚えるのではなく、その時代の課題や状況を理解することで、知識同士が自然につながります。背景を理解できると応用問題にも強くなります。例えば「商業が発展した江戸で、町人の間で様々な文化が起こる」といったように覚えると元禄文化は町人文化であるというのは簡単に覚えられ、忘れない記憶となります。

【社会成績 UP の条件 6】公民は制度の目的とともに、なぜそうなっているのか理由を理解する

公民は制度や仕組みを暗記する科目ではありません。「どんな問題を解決するために作られた制度なのか？」を理解することで、複雑な内容も整理しやすくなり、忘れない知識として頭に残ります。

【社会成績 UP の条件 7】問題文（特にリード文）は最初から最後までしっかり読む

近年の社会は資料や会話文、長いリード文が増えています。知識だけで解こうとせず、問題文の中から必要な情報を読み取る習慣を普段の学習から身につけましょう。普段から、書かれている内容をしっかり読めば、知識に関係なく解ける問題があることを経験し、納得することが大事です。

【社会成績 UP の条件 8】 データやグラフは「イレギュラー」にこそ注目する

グラフやランキングデータは覚えきるのは不可能です。法則をもとに整理して覚えることも大事ですが、その中にあるイレギュラーの理由に注目して、なぜそうなるのか？を覚えることができれば、記憶容量を圧縮できます。例えば雨温図の問題で、グラフを全部覚えることはほぼ不可能ですが「冬場に降水量が多い地域は雪が降っている。その中でも。氷点下にならないのが新潟の特徴」といったようにイレギュラーに注目して覚えると、いつの年度の雨温図が出ても一気に特定が容易になります。

【社会成績 UP の条件 9】 1つの用語を説明し、関連する言葉をいくつも思い出す

社会は知識同士のネットワークで覚える科目です。例えば「鎌倉幕府」と聞いたら、源頼朝・御恩と奉公・守護・地頭など関連事項を説明できる状態を目指しましょう。単語単体の暗記では限界があり、忘れてしまうと思ひ出せません。関連するワードを覚えていると記憶から引き出しやすくなります。

【社会成績 UP の条件 10】 間違えた問題は、何が覚えられていなかったのかを特定する

社会の復習は「答えを覚え直すこと」ではありません。知識が不足していたのか、流れを理解していなかったのか、資料の読み取りが甘かったのかを分析することが重要です。原因を特定できれば、同じミスは大幅に減っていきます。

社会の成績を上げる 3つの力が育つ

これら 10 の条件を揃えることで、社会の成績を上げる要となる「3つの力」が育っていきます。

社会の成績を安定して伸ばすには…

圧縮記憶力…整理することで、容量を圧縮して覚える力

資料読解力…資料やデータで注目すべきポイントを見極める力

勉強力…膨大な量を効率よく学習していく習慣

どの力も必要なもので、どれかを集中して伸ばせばいいというわけではありませんが…

10 個の条件が、どの力を育てるためのものかをまとめると…

社会の成績を伸ばす3つの力を育てる学習の条件とは？

圧縮記憶力	☐ 地図帳は必ず手元に置いて、毎回確認する ☐ 白地図に主要な山脈・平野はかけるようにする ☐ 地理的特性と出来事を必ず結びつけて覚える ☐ 歴史では「順番」を常に意識する ☐ なぜ、それが起こったのか？時代背景とともに理解する ☐ 公民は制度の目的とともに、なぜそうなっているのか理由を理解する
資料読解力	☐ 問題文（特にリード文）は最初から最後までしっかり読む ☐ データやグラフは「イレギュラー」にこそ注目する
勉強力	☐ 間違えた問題は、何が覚えられていなかったのか？に注目する
全ての力	☐ 1つの用語を説明し、関連する言葉をいくつも思い出す

【まとめ】社会は「勉強する力」そのものが試される教科だが…

1 度実体験が必要

社会は本当に「勉強のやり方」が上手い子は、ほとんど時間を使わずに高得点が取れる教科です。

ていねいに、理由とともに知識を増やしていくという本来あるべき勉強ができれば、長期で定着する知識が身につき、忘れてもすぐに思い出せる知識が身につきます。

社会で「どのように覚えるべきなのか？」をしっかり経験ができると、理科で覚えるべきことや、その他の教科の勉強でも「闇雲に問題を解く」という勉強ではダメだと気づきやすくなるのも特徴です。

ただ難しい点は「どうしてそうなったかも一緒に覚えなさい」と言ったようにお子さんに伝えてもできるようなことはありません。

社会で成績を上げるためには、やはり授業が上手い先生の大きいのも本音です。

大手塾の集団指導にも多数いらっしゃいますが、社会の指導が上手な先生は、1度の授業で記憶に残る

授業をするのが本当に上手で、子どもたちの記憶に残るように情報を届けてくれます。

運よく、そのような先生に出会えると、家庭で勉強するまでもなく、社会の成績を高水準で維持できるというお子さんも珍しくありません。

社会の成績を短期間で伸ばすために大事なことは「お子さんが社会の本来あるべき勉強を実体験することができるかどうか？」に尽きます。



まとめ

3か月で偏差値10UPするために「今日からできること」

いかがでしたでしょうか？

実際に3か月以内に偏差値10UP以上を達成しているお子さんが、どのように成績を上げているのかを紹介してみました。

事例を見ていただいたことで、

- 短期間で成績を上げる方法は確実にあること
- 「なんとなく量を増やす勉強」だけでは超えられない壁があること
- 条件さえ整えば、お子さんの思考レベル・解答レベルが格段に上がることに

といったことを、より鮮明に理解して頂けたのではないのでしょうか。

これは実際に名門指導会の指導を受けていただいたご家庭にも必ずお伝えしていることなのですが、私たちが最も注目していただきたいのでは「偏差値10UP」ではありません。

ご紹介したように、

その裏にある「お子さんの解答作業」に対するモチベーションと精度の変化

にこそ注目していただきたいのです。

なぜかという、お子さんの「学ぶ力」そのものが変わっているからです。

実際「範囲の狭い、目の前のテスト1回」であれば、お子さんに負担を強いて、集中的に対策をすれば、偏差値10UPすることも容易でしょう。

でも、そんなことでは本質的な成績は上がりませんし、やればやるほど勉強嫌いが加速します。

そして実力テスト、ひいては受験本番試験で点数が取れないという本末転倒の勉強になることはもう明らかですね。

やはり中学受験はもちろんのこと、お子さんの将来を考えた時に、

**本当に身につける力は目の前のテストをやり過ごす能力ではなく、
「どんな問題でも、確実に正答を出せる力」がつく「正しい学び方」**

ではないでしょうか？

とはいっても、もちろん、お子さんの学び方の全てが間違っているというわけではありません。

日々、膨大な学習量についていく中で、少しずつ、足りなくなってしまうことや、本来何をしないといけないのか？がわかっていないことが蓄積しています。

その所々足りなくなっている「成績を上げるために絶対に必要な条件」を1つずつ見つけ、お子さんが自然と無理なくできるやり方の中で、「気付き、体験し、納得し、定着させる」ことが成績を上げることができるのです。

全てを0から始めるわけではなく、お子さんの勉強のできているところはそのままで、変える必要があるところだけを集中的に、無理なく変える。

だからこそ、一見矛盾するような、「短期間で、かつ飛躍的な成績UP」を達成できるのが名門指導会だけが持つ唯一の強みです。

本書が、「成績を上げるためには、どのような学習改善が必要なのか？」その正しいやり方を知る一助になれば幸いです。

そして、もし今…

-
- 頑張って勉強しているのに、成績がどうしても伸びない
 - このままだと、志望校にどうしても届きそうにない
 - 苦手教科は、もう上がらないと半ば諦めてしまっている
 - 頑張っても結果が出ず、また量を増やしては、モチベーションが下がっている
 - うちの子の努力を、成績UPという結果につなげてあげたい
-

といったように悩まれているのであれば、ぜひ1度名門指導会の【個別相談付】体験授業への参加もご

検討下さい。

本書でご紹介したような指導法で、お子さん1人1人に合わせて「成績を上げるためには、何をしないといけないのか？」をたった1回の体験授業でも経験・納得することができます。

本書を読んでいただいた「確実に成績を上げたい」方を限定に、名門指導会代表の西村則康の学習カウンセリング特典がついた体験授業もご用意しております。

本書が、1つでも多くのご家庭の中学受験のお役に立てれば幸いです。

名門指導会 発起人

西村 則康

